

令和3年度 川内中学校総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指数と活動計画	評価		
1 学習指導 確かな学力の育成	①学習規律の確立を図る。 ②基礎基本の徹底を図る。 ③課題解決につながる思考力判断力、表現力の育成を目指した授業改善を図る。 ④家庭学習の習慣を身に付ける。	<b>評価指数</b> ①-1 生徒 「チャイム着席ができています」 ①-2 生徒 「提出物が確実にできる」 ②-1 生徒 「授業内容が理解できている」 ②-2 教師 「学習の遅れがちな生徒に適切な支援をしている」 ②-3 保護者 「学校は学力向上に向けて熱心に取り組んでいる」 ③-1 教師 「めあてを示し振り返りの時間を確保している」 ③-2 生徒 「先生はよく分かる授業を実践している」 ③-3 教師 「興味・関心を喚起できるような授業を工夫している」 ③-4 教師 「基礎・基本を身に付けさせ、思考力等を育成するため授業改善に努めている」 ③-5 生徒 「自分の考えを説明したり、発表したりしている」 ③-6 教師 「学習意欲の高い生徒に発展的な指導をしている」 ③-7 生徒 「読書をしている」 ④-1 生徒 「家庭学習の習慣が身に付いている」 ④-2 保護者 「家庭学習の習慣が身に付いている」	<b>評価指数の達成度</b> ①-1 A (93%) ①-2 A (89%) ②-1 A (88%) ②-2 C (65%) ②-3 B (81%) ③-1 A (91%) ③-2 A (95%) ③-3 A (93%) ③-4 A (90%) ③-5 C (47%) ③-6 C (58%) ③-7 C (56%) ④-1 C (64%) ④-2 C (57%)	(評定) B (所見) 授業中の私語や姿勢については継続指導を行う。学習評価については職員研修が必要である。メンター研修を活用してICT活用を研究し、広めていく。家庭学習の内容や量の検討が必要である。また、キャリア教育と結び付けて学ぶ楽しさを感じさせる。	・新型コロナで学習活動に様々な制約があるが、その中でも学習の楽しさが感じられる工夫があればよい。 ・生徒が生き生きと活動できている行事が早く実施できるとよい。 ・何事も積極的に行動するには、まず、自信をつけること、一人一人のよいところを見付けること、ほめて伸ばすことが中学生にも必要だと考える。学力の差がでてきているのが気になる。
		<b>活動計画</b> ①学校全体・全教職員で取り組む授業に臨む基本的姿勢の確立 ・「チャイム着席」「授業の準備物」「姿勢を正し授業に集中」 ・「川中学習ハンドブック」の活用と「授業のルール10か条」の徹底 ②徳島県学力向上プリントの活用等、プラス1課題の実践 ③「わかる授業」のために見通しのある工夫した授業の展開 ・「目標の明示」「課題解決のための学習活動」「振り返り」 ・ICT等、学習効果のある工夫と授業改善 ・読書時間の確保・啓発 ④自主勉強「グリッドチャレンジ」の活用による家庭学習の充実	<b>活動計画の実施状況</b> 学習規律である川中スタンダードとポジティブな行動支援を校内掲示で視覚化した。継続的な取組は十分とはいえない。 学力向上プリントやプラス1課題は1, 2学期は徹底せず、3学期にまとめて行った。 タブレットを活用した研究授業を4教科行い、校内研修が充実した。		
2 道徳・人権教育 差別を見抜き許さない姿勢、不当な差別に立ち向かう行動力の育成	①言葉を大切にし、礼儀正しい態度を育成する。 ②自他の生命と人権を尊重し人権意識と自己肯定感を育む。	<b>評価指標</b> ①-1 教師 「礼儀や言葉遣い、エチケットやマナーの指導を心がけている」 ②-1 教師 「発達段階や生活背景を理解し、人権教育の推進に努めている」 ②-2 生徒 「いじめや暴力を受けている人を見たら助けようと心がけている」 ②-3 教師 「生徒は周囲の人に優しく、人を傷つけるような言動が見られない」 ②-4 生徒 「人を傷つけるような言動がなく、周りの人に優しく接している」	<b>評価指数の達成度</b> ①-1 A (90%) ②-1 A (90%) ②-2 A (87%) ②-3 B (80%) ②-4 A (92%)	(評定) A (所見) 外部講師を活用し、SNS上での書き込みや人権侵害について指導する。困ったことがあれば学級担任や部活動の顧問に相談できる信頼関係を構築する。	・以前より仲がよいというところがあるが、そのよさを継続してほしい。 ・集団生活のルールが身に付いていると感じた。 ・人権教育は、普段の生活から学ぶものと考えて。家庭での役割は重要である。
		<b>活動計画</b> ①全教育活動を通して、礼儀や規則正しい生活を送れるよう指導する。 ②年間指導計画を見直し、人権に関する講演会や人権集会を充実する。 ・研究授業の充実 ・道徳教育の推進・充実 ・人権教育の推進・充実	<b>活動計画の実施状況</b> 礼儀や規則正しい生活を送れるよう指導した。学年人権集会や人権学習を通して、人権意識の育成に努めた。		
3 健康・安全指導 心身の健やかな発育と自らの健康の保持増進に取り組む力の育成	①食育を推進し、基本的な生活習慣が身に付いた生徒を育てる。 ②生徒会による「自転車運転免許制度」を活用し、交通マナーの向上に努める。 ③防災学習や避難訓練の充実を図り、地域と連携した学校防災の意識を高める。 ④部活動は、教員全体制で生徒の心身を鍛え、育てる。	<b>評価指標</b> ①-1 生徒 「毎日、朝食を食べている」 ①-2 保護者 「毎日、朝食を食べている」 ①-3 生徒 「睡眠不足を感じる事が多い」 ①-4 保護者 「夜更かしをせず早寝早起きをしている」 ①-5 生徒 「携帯電話等を学習以外に2時間以上使用している」 ①-6 保護者 「家庭で携帯電話等のルールを決めている」 ②-1 生徒 「交通ルールを守り、登下校している」 ②-2 生徒 「先生は校則やマナー違反に適切に指導してくれる」 ②-3 保護者 「学校は規則遵守に適切な指導を継続している」 ③-1 教師 「学校防災管理マニュアルに基づいて、避難訓練を実施し、南海トラフの地震の対応を行っている」 ④-1 保護者 「部活動の指導や運営が適切である」 ④-2 教師 「部活動指導に責任を持ち、適切な休養日を設定しながら計画的に実践している」	<b>評価指数の達成度</b> ①-1 A (93%) ①-2 A (91%) ①-3 C (51%) ①-4 C (51%) ①-5 B (78%) ①-6 C (67%) ②-1 A (99%) ②-2 A (96%) ②-3 A (94%) ③-1 A (94%) ④-1 A (91%) ④-2 A (88%)	(評定) B (所見) 食育や交通指導は継続して実践し効果がみられた。自己有用感や自尊感情がもてる指導が必要である。パソコンや携帯電話の使い方を家庭と連携し、指導が必要である。避難訓練を工夫するとともに、各部委員会で防災委員会を設置し、生	・自転車の乗り方、ヘルメットの着用等、よくできている。 ・睡眠不足を感じている生徒が多いようなのでスマホの利用やスマホの健康に対する影響等の指導が繰り返す必要がある。 ・睡眠不足は学校生活に影響するものである。今後ともPTA等を通して保護者に働きかけをし協力依頼を継続してほしい。 ・新型コロナやプール跡地利用への対応など迅速に対処できている。 ・朝食をしっかりとしている家庭が多いことはありがたい。
		<b>活動計画</b> ①食生活に関するアンケートを実施し、給食の時間、学級活動等において朝食の大切さについて指導するとともに、食育ボード等で啓発する。 ②交通指導計画に基づき、交通指導を徹底する。	<b>活動計画の実施状況</b> 生徒指導委員会を定期的に開催し、不登校、問題行動等のある生徒について共通理解を図った。SNSの使い方について生徒の		

		交通安全教室を実施する。 ③学校防災管理マニュアルに基づいて、避難訓練を実施する。南海トラフ地震の対応を行う。 ④適正な部活動指導を組織的に行い、適切な休養を設ける。	実態に合った教材を用いて指導した。 避難訓練は2回実施し、生徒の自主的な活動を取り入れたが、部活動中の避難方法も入れ、さらに充実する必要がある。	徒主体の取組を地域・PTAと連携して計画する。	・睡眠不足、携帯電話等に関しては家庭の協力が必要である。	活用 ・保健体育保健分野では学級別に授業をし、性教育の充実 ・感染対策の徹底
4 生徒指導 寄り添い、育てる毅然とした生徒指導の充実	①問題行動やいじめのない学校生活を送る。 ②あいさつを励行する。	<b>評価指標</b> ①-1 生徒 「学校へ行くのが楽しい」 ①-2 教師 「いじめや問題行動等の早期発見に努めている」 ①-3 教師 「差別や偏見・いじめいじめのない集団づくりに努めている」 ①-4 保護者 「いじめや暴力のない学校づくりに努めている」 ①-5 保護者 「学校へ行くことを楽しみにしている」 ②-1 生徒 「きちんとあいさつしている」 ②-2 教師 「生徒は気持ちのよいあいさつができています」	<b>評価指数の達成度</b> ①-1 A (88%) ①-2 A (93%) ①-3 A (97%) ①-4 B (87%) ①-5 A (84%) ②-1 A (91%) ②-2 B (76%)	(評定) A	・生徒、保護者に寄り添う指導を心がけているところがよい。 ・生徒が落ち着いているのがよい。 ・早期発見、初期対応が大切と考える。 ・コロナ禍において重要な課題の1つだと感じている。	・教師が一人一人の生徒を大切に、悩みに耳を傾け寄り添う姿勢の確立 ・小学校と連携し、発達段階に寄り添った丁寧な生徒指導による中1ギャップの解消と適応 ・清掃活動、ボランティア活動による自尊感情、自己肯定感の育成 ・年3回の学校生活アンケートや日記による生徒の訴えに迅速な対応 ・不登校生徒へのきめ細かな支援と教室へ戻れるよう段階的な指導 ・人権・いじめ子ども委員会の自主的な活動と発表の場の設定
5 特別支援教育 生徒一人一人の理解に努める適切な支援の実践	①生徒一人一人のよさや能力を引き出す教育を進める。 ②保護者との連携を密にして共通理解のもと特別支援教育を進める。	<b>評価指標</b> ①-1 生徒 「先生は相談したら誠実に対応してくれる」 ①-2 教師 「一人一人の生徒理解に努めている」 ②-1 教師 「保護者からの連絡や相談に迅速かつ適切に対応している」 ②-2 教師 「保護者と連携し、生徒の成長を支援している」 ②-3 保護者 「学校は保護者からの連絡や相談、面談に誠実かつ適切に対応している」	<b>評価指数の達成度</b> ①-1 A (94%) ①-2 A (91%) ②-1 A (100%) ②-2 A (91%) ②-3 A (91%)	(評定) A	・生徒のニーズの共有や体験学習などの工夫ができていてよい。 ・生徒一人一人に寄り添っていただいている様子がわかる。伸び伸びと生活してほしい。	・生徒の特性を充分理解し、個のニーズに応じた指導の充実 ・校内支援委員会の効果的で適切な運用 ・支援を要する生徒への具体的な手立てを全職員で共有し、実践
6 キャリア教育 発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育の推進 社会的自立に向けた必要な資質・能力の育成	①体験的な活動を通して、「働くこと」の意義を理解し、将来の夢の実現のために計画的継続的に努力する生徒を育てる。 ②1学年から計画的な進路指導を行い、自分に適する進路を選択できる力を育成する。	<b>評価指標</b> ①-1 生徒 「将来の夢があり目標をもって生活している」 ①-2 教師 「清掃や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」 ①-3 教師 「委員会活動や学校行事に進んで参加している」 ①-4 保護者 「家庭で家事などの手伝いをしている」 ②-1 生徒 「自分の進路について真剣に考えている」 ②-2 保護者 「進路や将来のことについて話をしている」	<b>評価指数の達成度</b> ①-1 C (63%) ①-2 B (84%) ①-3 A (87%) ①-4 C (53%) ②-1 B (78%) ②-2 B (82%)	(評定) B	・新型コロナの影響で職場体験等ができなくなっているのが残念に思う。この状況の中、講演会ができたようのできる範囲で行うことが大切である。 ・清掃時の様子を見て感心した。 ・生徒には様々な体験をしてもらいたい。素晴らしき講演を聞き、社会問題にも関心をもち、何事にもチャレンジすることの大切さを学んでほしい。	・1年時から計画的な進路指導による適性と進路選択 ・外部講師や卒業生を招聘し、講演会等の実施 ・働くことを想定し、社会問題であるSDGsに対応する委員会活動の充実 ・体験活動やボランティア活動の充実 ・生徒が資源ごみ回収に参加し体験活動の重視
7 開かれた学校づくり 家庭・地域との連携	①保護者・地域への情報提供をきめ細かに行う。 ②地域や関係機関と連携し、信頼関係を構築する。	<b>評価指標</b> ①-1 保護者 「学校は情報提供(お便り、マチコミ)が適切である」 ①-2 生徒 「連絡プリントを確実に家庭に届けている」 ②-1 保護者 「学校は家庭への連絡やPTA、地域との連携ができています」	<b>評価指数の達成度</b> ①-1 A (95%) ①-2 A (86%) ②-1 A (86%)	(評定) A	・保護者が学校に気軽に連絡をくれるのも信頼関係ができてきたからだと思う。 ・保護者、地域の連携は大切である。「地域に愛される川内中学校」でありたい。	・保護者から学校に相談しやすい環境の整備 ・問題行動や不登校におけるスクールカウンセラーや児童相談所と連携、適切な支援 ・コミュニティスクールの体制の構築 ・PTA活動の改善とさらなる充実